

# 島根県における主要水産資源に関する資源管理調査

(資源管理調査業務委託事業)

寺谷俊紀・沖野 晃

## 1. 研究目的

島根県における主要水産資源の合理的・持続的利用を図るため、県内における漁業種別・魚種別の漁獲動向を把握する。さらに、試験操業によって島根県沖合海域における底魚・浮魚資源の状況を把握し、資源管理手法開発の基礎資料とする。

## 2. 研究方法

### (1) 漁獲動向の把握

漁業協同組合 J F しまねおよび海士町漁業協同組合に水揚げされる漁獲データを収集・集計した。なお、漁獲動向の把握には、2004年に開発した漁獲管理情報処理システム<sup>1)</sup>を使用した。

### (2) 資源状況調査

島根県沖合海域における底魚の資源管理手法開発の基礎資料とするため、漁業試験船島根丸を用いて2021(令和3)年10月～2022(令和4)年1月に浜田沖、江津沖および益田沖の水深96～134mで、トロール試験操業を4航海、7曳網実施し、主要底魚類の分布や体長組成等の資源状況を調査した。

### (3) 浮魚情報の提供

島根丸による各種調査において航行中に魚群探知機を動作させ、魚群の情報を収集した。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲動向の把握

漁獲動向については、島根県における主要漁業の漁獲データを毎月集計し、島根県資源管理協議会へ報告した。

### (2) 資源状況調査

主要魚種16種について、1曳網当たりの漁獲量は17～96kgであった。10月14日の浜田沖では主な漁獲物はキダイ、マアジ、マトウダイであったが、11月2日～11月4日の江津沖ではアカムツ、マアナゴ、1月25日の益田沖ではキダイ、マトウダイ、ムシガレイがそれぞれ漁獲され、時期と場所で魚種組成が変化した。

### (3) 浮魚情報の提供

島根丸の航行中に得た魚群探知機の反応について、反応のあった海域が中型まき網の操業範囲外であったため提供は行わなかった。

## 4. 研究成果

調査結果は島根県資源管理協議会へ報告し、漁業者が実施する資源管理の取り組みに利用されている。

## 5. 文献

1) 村山達朗・若林英人・安木 茂・沖野 晃・伊藤 薫・林 博文: 島根県水産試験場研究報告第12号(2005)